

羅生門

観賞日 2019・4・8

制作 1950年 日(大映)
原作 芥川龍之介(「藪の中」「羅生門」)
脚本 黒澤明、橋本忍
監督 黒澤明
音楽 早坂文雄
撮影 宮川一夫
出演 三船敏郎(多襄丸)、森雅之(金沢武弘)
京マチ子(真砂)、志村喬(木こり)

上映時間 88分(デジタル完全版)



【あらすじ】

平安時代、京の都は相次ぐ戦乱と天変地異で人心は荒れ果てていた。雨が降りしきる羅生門の下で、木こりと旅の僧侶は下人を相手に数日前に見た、ある恐ろしい話を語り始めた。

森に薪を採りに出かけた木こりは男の死体を発見し検非違使に届け出る。同時に、僧侶も馬に乗った美しい女と殺された男の夫婦連れを見かけたと申し出、さらに盗賊の多襄丸を捕らえた男が役人を前に証言する。しかし、多襄丸、女、巫女の口を借りた男3人の供述は全く食い違っており、客観的立場にあるはずの木こりの話も異なっていた。誰もが自分の都合の良い話をするという、人間の心に潜む邪悪さ。

誰が男を殺したのか？なぜ殺したのか？その真相は？

【解説】

■ポイント

●制作秘話

- ・公開当初は、評価面・興行面共に不評で制作関係者は左遷されていた。
- ・ヴェネツィア国際映画祭の関係で日本映画の出品作を探していたイタリア人のストラミジョリが本作を観て感激し大映に出品を依頼。
- ・映画祭では見事にグランプリを受賞し、後に「世界のクロサワ」となるきっかけを作った。

●日本映画を世界に知らしめた作品

日本映画として初めて海外の映画祭でグランプリを受賞
(対抗は「巴里のアメリカ人」「欲望という名の電車」)

●デジタルリマスター

古い映画フィルムを最新の電子機器でデジタル化し、傷や汚れを取り色の補正や音質の調整などをする作業。新しいデータから複製したものをデジタルリマスター版という。近年、続々と過去の名作がデジタルリマスター版としてよみがえっている。

■見どころ

●宮川一夫のカメラ

森の中の木洩れ陽。光と影。

人間の心に潜む善と悪を象徴し、物語の内容にマッチ。

●ラストシーン

雨が止み、捨てられた赤ん坊を育てようとする僧侶と子供を預かる決意をする木こり。信じる心を取り戻すラストが救い。